

クロマツ *Pinus thunbergii* Parl.

マツ科 Pinaceae

1. 利用対象部位：樹皮

2. 組織形態：

樹皮は深い割れ目が多数入り、やや縦長の多角形の鱗片としてはげ落ちる。

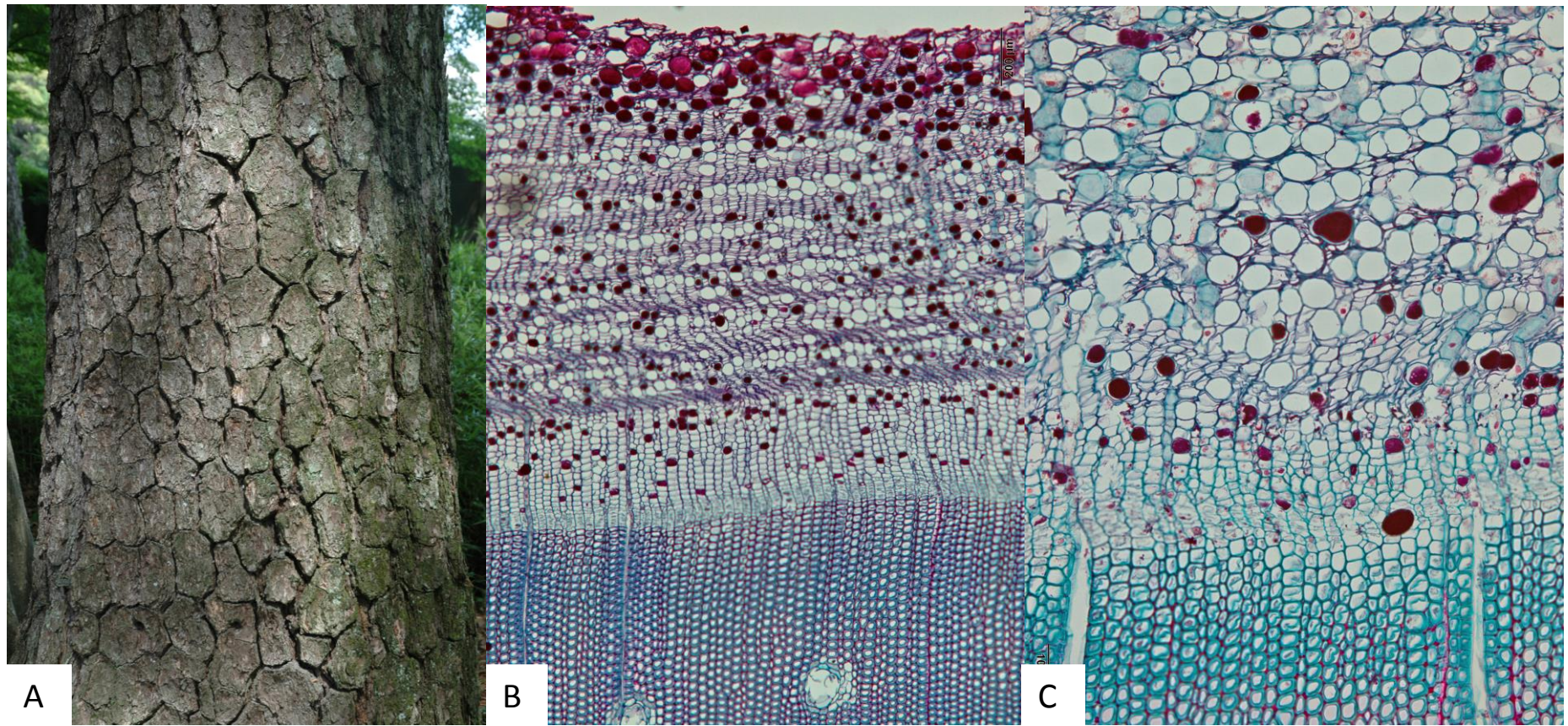
内樹皮の基本構造は篩細胞層の中に単独の柔細胞がランダムに混じる。柔細胞が接線状に配列する傾向は無い。

形成層の活動により組織が外に押し出されて行くと篩細胞層は押しつぶされるが、柔細胞は丸く膨らんでやや大きくなる。柔細胞と思われる細胞が再分化し、大きく膨らんで、細胞内容物の無い薄壁の細胞を多数作る。これらはあたかも細胞壁が厚壁化しない「厚壁異形細胞」のように見えることから「厚壁化しない厚壁異形細胞(?)」と仮称する。

以上のようにクロマツの樹皮には繊維細胞が無いことから、編組製品の素材とはならないと考えられる。

3. 利用例：なし

4. 遺跡出土遺物：なし



A:クロマツの樹皮(高知県桂浜)。 B&C:内樹皮の横断面とその拡大。画面下部に二次木部および形成層帯がある。黒紫色の細胞内容物があるのが柔細胞、細胞壁が青色で細胞内容物が無いのが篩細胞。肥大成長により組織が外側に押し出され、篩細胞が機能を失うと周囲の柔細胞が再分化して直径が大きく断面が丸い薄壁の「厚壁化しない厚壁異形細胞(?)」を多数作り、これが樹皮組織の大部分を占めるようになる。樹皮の放射組織は単細胞幅。